

【87】 土木の神様は酒好き？

仕事から現役時代にはダムや排水機場の工事の起工式や竣工式によく出席させてもらいました。近年は、宗教、公私の峻別などいろいろやかましくなり、神事に公務員は参加を見合わせるようになりましたが、工事の安全祈願や殉職者の追悼の意味もあるので、かつては発注者側の職員も出席したものです。

神事の始まりは、まず「献饞(けんせん)の儀」というのがあり、正面の祭壇に並べられている米、野菜、尾頭付きの魚などの供物の載った三方(さんぼう)の左右両側に立っている徳利のような瓶子(へいし)の木栓を神主さんが二つとも取ります。むろん中身は御神酒です。

それから、「降神の儀」となり、神主さんがうなり声のような低い声で呼びかけ神様に降りてきてもらい、以後一連の儀式が続きます。

式の終わりは「昇神の儀」で神様にお帰り頂き、最後に「撤饌(てっせん)の儀」で瓶子に木栓をします。

つまり、土木の神様は酒瓶の栓が開いている間だけ会場におられるわけで、下世話に言えば酒の匂いにつられて降りて来て下さるのです。

人間の世界でも神事のあとのお祝い会では酒が出され、にぎやかにやりますが、神様も俗界の人間も酒好きの点ではあまり違いは無いようで、いつも苦笑しておりました。